

日本の医療機材が、10年間救ってきた小さな命

— ヴィソーザ市サン・セバスチャン病院新生児集中治療室の10年後 —

赤ちゃんの命を救う集中治療室

ミナスジェライス州ヴィソーザ市にある慈善病院「サン・セバスチャン病院」。ここでは、未熟児などの新生児の集中治療を行っています。1歳未満で死亡する子供の多くが、産まれてから1週間以内に亡くなるとのことで、この新生児治療室はそのような赤ちゃんの早期死亡を防ぐため、10年前にオープンしました。

しかしながら当時、新生児治療用の病棟ができたものの、肝心の医療機材の購入の目途が立っていませんでした。サン・セバスチャン病院は慈善病院であるため、十分な資金を持ち合わせていなかったためです。

そこで、2004年に「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を通じて、日本より、保育器や蘇生器、呼吸器、光線療法設備等の医療機材を供与しました。これにより、同年、治療室は開業することができました。



感動と感謝の式典

開業より10年が経った2014年5月9日、その10周年を記念する式典がヴィソーザ連邦大学の講堂で開催されました。式典への招待状は当館にも届きました。10年経っても当館のことを、日本の支援を、忘れずに続けてくれたのです。

式典には、サン・セバスチャン病院院長をはじめ、前院長（治療室オープン時の院長）、ヴィソーザ市長、ミナス州環境局長、ヴィソーザ連邦大学学長ほか多数の関係者、来賓が出席していました。地元のテレビ局の記者も熱心に取材をしていました。

出席者のスピーチのうち、一部を紹介いたします。

● トレス・ジュニオール院長

「本日遠くから駆けつけてくれた日本総領事館の皆様へ深く感謝します。日本総領事館の協力なくしてこの集中治療室は存在しませんでした。この10年間、1,600人以上の

大切な命が救われました。」

●マシャード前院長

「自分が院長であったときに開設したこの新生児集中治療室の10周年式典に出席することができ大変うれしく思います。全ての機材を供与してくれた日本総領事館には深く感謝しています。また、当集中治療室の業務に献身的に取り組んでくれている全ての関係者に対して心からお礼を申し上げます。」

●元患者（新生児）の母親

「これまで多くの新生児が入院し、多くの母親が付き添ったことと思います。その中には、笑いあり、涙あり、喜びあり、そして悲しみもあったことと思います。自分はわずか28週間で長女を出産しました。長女は未熟児でしたが、紹介を受けてこの集中治療室に入院することができました。病院は健康保険を持たない私に無料で治療を施してくれました。

当初、新生児治療室がどのようなところかさえわからなかった自分に対し、病院スタッフは懇切丁寧に説明してくれ、長女に対して朝から晩まで24時間献身的に対応してくれました。どれだけ感謝してもしきれません。

長女にとっては毎日が戦いの日々でしたが、74日間もの間入院し続けた結果、ついに、その戦いに勝つことができたのです。自分は、長女が集中治療室から出てきて、初めて抱くことができたその瞬間を、決して忘れることができません。

長女は現在すでに8歳になり健やかに育っていますが、自分は1日たりとも病院への感謝を忘れたことはありません。」



集中治療室は今

式典に先駆けてサン・セバスチャン病院の集中治療室を訪れました。病院は外観も病院であるかのように見えないきれいな建物であり、また内部も明るく衛生的であるのが印象的でした。

院長はじめ関係者との挨拶・懇談の後、さっそく集中治療室を訪れました。このときも7人の赤ちゃんが入院していました。当時日本から供与した機材は今でも大切に使用され、多くの子供たちの治療に役立てられています。機材はメンテナンスが行き届き、10年という年月を感じさせないほどでした。

治療室のスタッフは常勤医師8名、看護師17名を含む31人であり、看護は12時間2交代制、24時間つきっきりで対応にあたっています。また、交代の際にも、その日の赤ちゃんの様子や対応の内容などを書き残し、次の担当者にしっかり引き継いでいます。

また、サン・セバスチャン病院は、ヴィソザ連邦大学と共同研究開発を行ったり、医学部の学生の研修医受け入れを協定として結んでいるなど、積極的な連携を行っており、メディアにもたびたび取り上げられます。こうした活動を通じて、その名は広がり、今では市外からも多くの患者が来館しているそうです。

10年間、数多くの小さな命を救ってきた、サン・セバスチャン病院、今後も多くの命を救ってくれることが期待されます。



ミナスジェライス州ヴィソーザ市、ここは今でも日本の支援に感謝の気持ちを持つ人たちが多くいるまちです。